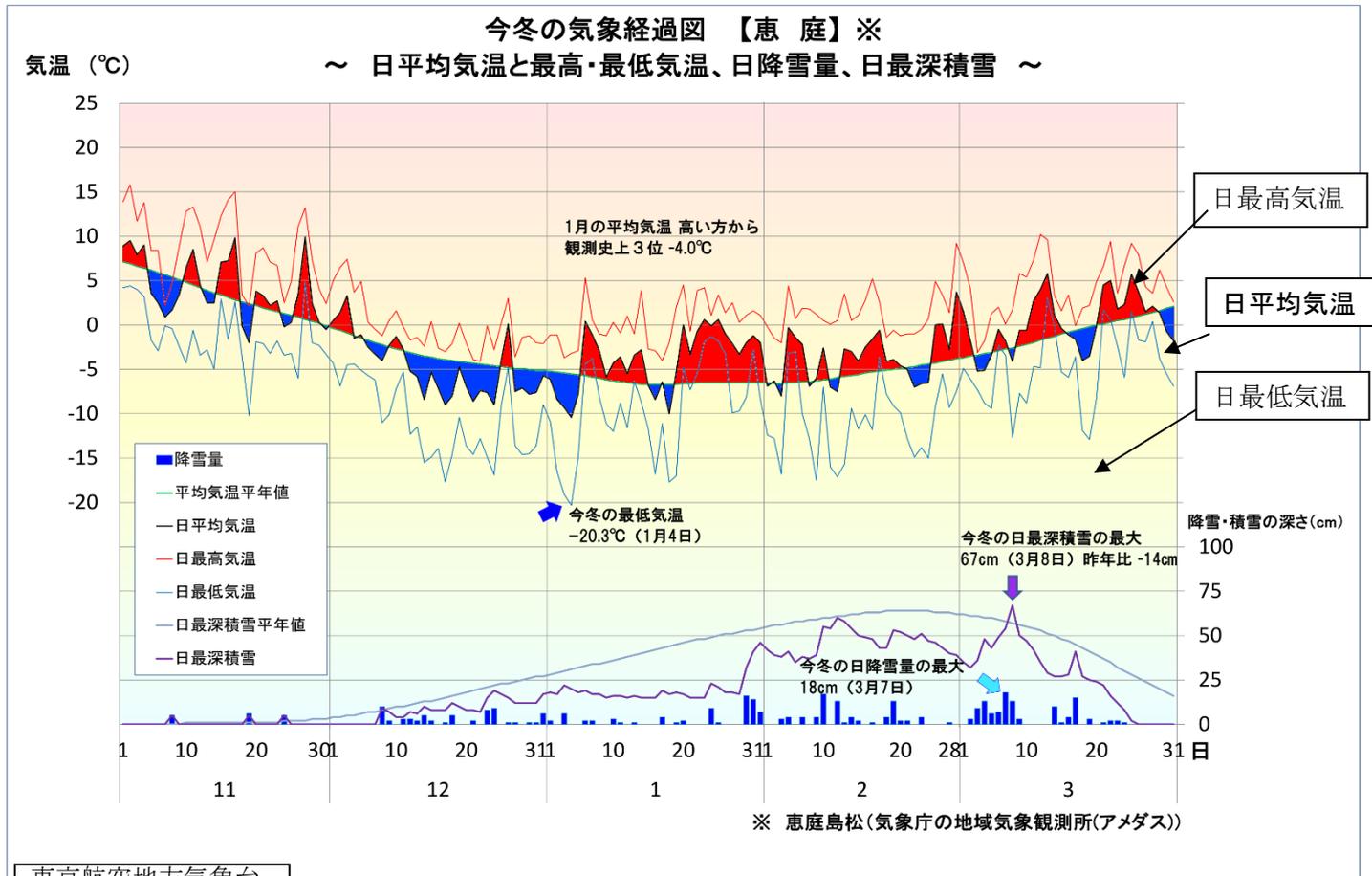


# 季節のまとめ

【今年の冬を振り返って】（令和6年11月～令和7年3月）

防災士 清水為一



## 【概況】

今年の冬は、グラフで見られるように、期間を通して気温が高く、日最低気温が $-20$ 度を下回った日が1日しかなく、また、降雪量は平年に比べ6割程度で、“”ドカ雪””も無く身体に優しい？比較的穏やかな冬でした。

## 月別経過

### 11月

上旬初めは低気圧が通過した後、西高東低の冬型の気圧配置が強まったため曇りや雨の日が多かった。中旬は、高気圧に覆われ晴れた日が多かった。下旬は、低気圧や前線の影響を受けず比較的晴れた日が多かった。

\* 10分間降水量 7.5 mm (27日) 11月として 多い方の第3位

### 12月

上旬初めに低気圧が通過したあと、中旬・下旬にかけても西高東低の冬型の気圧配置が強まったため、今冬季で唯一気温が低く経過した。

* 10分間降水量	2,0 mm (3日)	12月として	多い方の第8位
* 月降水量の少ない方	31,5 mm	12月として	少ない方の第3位
* 月最深積雪	19 cm (24日)	〃	多い方の第9位

### 1月

上旬は、西高東低の冬型の気圧配置になる日が多く曇りや雪の降る日が多かった。中旬から下旬にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多かった。

* 月降水量	35,5 mm	1月として	少ない方の第9位
* 10分間降水量	1,0 mm (26日)	〃	多い方の第8位
* 月平均気温	-4,0度	〃	高い方の第3位
* 月最深積雪	46 cm	〃	少ない方の第7位

### 2月

上旬から中旬にかけて低気圧の影響を受けやすかったため、曇りや雪の日が多かった。下旬は冬型の気圧配置が強まった日があった他、旬後半は高気圧に覆われやすかった。気温は、寒気の影響を受けにくかったため高かった。

* 日最高気温	9,2度 (28日)	2月として	高い方の第5位
* 月平均気温	-3,8度	〃	高い方の第7位
* 月最深積雪	60 cm	〃	少ない方の第3位

### 3月

上旬は高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、中旬は、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。下旬は低気圧の影響を受けやすく曇りで雪や雨の降った日が多かった。期間を通じて北からの寒気の影響で気温はやや低かった。

* 日最大10分間降水量	2,0 mm	3月として	多い方の第3位
* 日最大1時間降水量	8,5 mm (26日)	〃	多い方の第3位
* 月降水量	73,0 mm	〃	多い方の第10位
* 日最低気温	3,1度 (13日)	〃	高い方の第8位

### まとめ

今冬の特徴として、西高東低の冬型の気圧配置になることが少なかったため、12月を除いて気温が高く、降雪も少なく経過しました。昨年のも「暖冬」と言われましたが、2年連続で「暖冬」となりました。この原因は次のように考えられています。

\* 夏から秋にかけては上空の偏西風（亜熱帯ジェット気流）が平年より北寄りを流れる傾向が強まり、暖かい空気に覆われやすい状態が持続した。

（偏西風は、赤道付近の暖気と北極の寒気の差が大きいと強く吹くため蛇行しにくくなります。しかし、最近の地球温暖化により温度差が小さくなるにつれ蛇行しやすくなっています）

\* 日本近海の海面水温が顕著に高かった。

\* 長期的な地球温暖化に加え、2020年夏～2022/23年冬の「三冬連続のラニーニャ現象」によって西太平洋の海洋内部に2020年から蓄積された熱が2023年春～2024年春のエルニーニョ現象に伴って赤道太平洋域全体の海面付近に広がって大気を強く暖めた。

\*北太平洋・北大西洋の中緯度帯で海面水温が顕著に高い状態が持続した影響により、熱帯及び北半球中緯度の対流圏気温が記録的に高かった。

というように分析されています。つまり、地球規模で温暖（沸騰？）化（していることは疑いようがなく、また、このような状況は、長期に亘って形成されたため、なかなか解消しずらく今年（2025年）夏の気温も高く経過するという予想があり、私たちの生活も、従来の夏とは異なることを念頭において生活する必要があるようです。